

令和7年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・個人用タブレットのコンテンツを活用し、授業の振り返りや、調べ学習、意見共有等に生かすことができた。
- ・身の回りで活用されている事例と関連づけて、実生活に生かす工夫について考える時間を設定することができた。

(2) 課題

- ・基礎的な学力の定着度が低く、自ら工夫して考える力、創造力につながりにくい。
- ・作業途中でのつまずきに対して、自ら解決しようとする意識が低い。
- ・向上心や新たなことにチャレンジする意欲が乏しい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

学習効果測定未実施のため、授業の様子や小テスト、定期テスト等の結果をもとに、分析・授業改善を行う。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識が乏しく、学習習慣が身につけていない生徒が多い。	生活や社会と関連づけて物事を判断したり、それを活用したりしようとする意識が低い生徒が見受けられる。	製作に対する意欲は高いが、その仕組みや生活や社会との関連について考えようとする意識が低い生徒が見受けられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識・技能について、一定数生徒は定着してきているが、まだ定着度は高いとは言えない。	対話的な活動は活発に行う生徒が多いが、状況により、最適解を導き出そうと、深く考える力に課題が見られる。	作業学習に対する意欲は高い生徒が多く見られるが、学習内容によって意欲に差が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識は6割程度の生徒がテスト等の結果から定着していると思われる。	これからの生活や社会を見通して物事を考え、よりよく工夫し創造したものを表現する能力に課題が見られる。	授業に対する主体性は高い生徒が多い。貪欲に評価を上げようとしている生徒が昨年度よりも増加した。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規律ある授業展開を心がけ、実践的・体験的な活動を通して、知識の習得から技能の習得へつなげられるようにする。	生活や社会の中で使われている技術や衣食住について、実生活と関連づけた内容を多く取り入れる。	生活や社会と関連づけた教材を活用し、生徒の興味・関心を引き出す工夫を心がける。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識習得後に作業する授業だけでなく、作業に必要な知識を見付け、生徒自身が必要だと感じられるようにする。	対話的な活動から自分の意見と他の生徒の意見を比較し、新たな自分の意見を生み出せる「深い学び」につなげていく。	学習につながりを持たせ、全ての学習が関連していることを意識できるように授業内容を工夫する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定着した知識が実生活のどのような場面で生かされるのかを考えさせ、「生きる知識」として活用できるよう指導する。	自分たちがこれから担っていく社会において、必要な考え方や行動などを、具体例を示しながら考える授業を意識する。	自分ができる範囲にとどめず、一段階上をチャレンジできる環境と、失敗を次につなげられる向上心をもてるように、授業の雰囲気作りを意識する。